

Long-Term Prognostic Role of the Diagnostic Criteria for Arrhythmogenic Right Ventricular Cardiomyopathy/Dysplasia

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊池, 規子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00023899

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2913 号	氏 名	菊池 規子
審 査 委 員 会	主 査 教 授	山崎 健二	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>不整脈源性右室心筋症 (ARVC/D) は心室性不整脈と右室への脂肪浸潤を特徴とする心筋症であるが、本研究では、診断基準 Task Force Criteria (2010 TFC) の基準 (右室の構造や機能・病理組織・心電図の脱分極・再分極・心室性不整脈・家族歴) によるスコアリングが予後予測に有用であるかを検討した。90 名の患者を平均 10.2 年観察し、スコアの低→高値の順に A, B, C 群に分けると、B, C 群は A 群に比し、主要血管イベントならびに心室頻拍・細動の発生リスクが有意に高いことを示した。ARVC/D の患者において、診断基準である 2010 TFC に基づいたリスクスコアが、主要血管イベント発現の予測に有用であること明らかにした有用な研究である。</p>			
<p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]</p>			